

令和7年度第3回 田原本町総合教育会議 会議録

日 時 令和7年10月21日（火）午後3時00分～午後4時20分
場 所 田原本町役場 理事者控室
出席者 田原本町長 高江啓史
教育委員 眞田和則 榊井歌世 山田育弘
教育長 大村泰弘
事務局 町長公室長 中辻勇
教育部長 森淳一
教育総務課 課長 森川理恵
課付課長 安倍仁
指導主事 山田佳余子
指導主事 中村雅也
課長補佐 奥谷知日朗
文化振興課 課長 久保知彦
課長補佐 澤田糸美
課長補佐 西嶋恵輔
欠席者 岡本春江
傍聴者 なし
議 題 （1）町内小中学校児童生徒の学力テストの結果及び考察について

町長

令和7年度第3回目の総合教育会議を開催する。

皆様の協力のもと無事に教育大綱が完成した。完成した大綱は、広報誌に特集として掲載したところ、好意的な意見が多数寄せられた。これから全ての小中学校を訪問し、感謝と具現化に向けての協力をお願いを行う。現場からも13件ほど意見をいただいております、教育委員会において精査をしていただき、今後の具体的な取り組みにつなげていくということを考えている。

○議題1 町内小中学校児童生徒の学力テストの結果及び考察について

町長

従前よりこのテーマは年に1回開催をしている。事務局より説明する。

（事務局説明）

町長

昨年度の課題であった読解力・活用力の向上に向け、今年度から読解力向上プロジェクトとして、小学4年生から6年生を対象に、電子図書約4,000冊を導入した。また、学校司書が現場を巡回して本と接する機会を創出する取り組みも行っており、今後、すべての

小中学校への拡大も視野に入れ検討していく。また、学び合いの取り組みについては、純粋な学力向上だけでなく、児童が話す機会を得ることで学校に別の居場所ができ、不登校の減少にも繋がるという事例も報じられており、学力以外の側面でも非常に意味のある取り組みであると認識している。

眞田委員

小・中学校においても、文章を読んで理解し、頭の中で組み立てて想像する国語力が最も重要な基礎であり、他の教科の学力にも繋がるため、しっかり力を入れる必要がある。電子図書の導入も一つの大きな取り組みとして評価しつつ、特に幼稚園や小学校低学年においては、人の話をしっかりと聞き、物語などを通じて情景を頭の中で浮かべられる聞く力をさらにつける必要がある。現在、先生や保護者による読み聞かせに力を入れていると聞かすが、これは非常に大事な活動だ。人間の脳は、情景を想像する回路（シナプス）が10歳頃までに豊かに繋がっていきとされており、その時期に地道に想像力を育む取り組みが大事だ。すべての先生がこの基礎づくりを意識しながら授業に取り組むことが重要で、最終的な理想形は、資料で示されたような学び合いの学習形態である。教え方の技術や授業に対する意識をさらに向上させ、黒板に書いて伝えるだけの古い授業からの脱却が不可欠である。

町長

学び合いでグループワークなどを通じて、一方的に話を聞くだけでなく、それぞれが役割を担っていくことは、単純な学力向上の話ではなく、不登校やいじめの発生をそもそも起こさない空気の醸成になると感じる。学び合いをモデル的に実施している町内の学校はあるか。

指導主事

小学校においては、一斉授業をしている方が珍しい状態になってきている。一方で、現在の取り組みはまだ形式的な域を出ていないと感じている。中学校においては、状況は様々で、積極的に学び合いの形式を取り入れている方もいれば、探究学習に熱心に取り組んでいる方もいる。特出して上手に学び合い授業を行っている先生を中心に広げていくことも検討している。

町長

実際にそういった方が町内にいらっしゃるようであれば、そこから広げていただけるとよいと思う。

山田委員

中学校で数学のクラスを二つに分けているという話を耳にした。数学の学力の分布が広いため、クラスを分けて授業ができる体制は確かに大事だ。どこを基準に授業を進めるかによって教える内容が大きく異なってくるため、クラスを分けられるような体制が必要であると認識する。

町長

クラス分けはどういった基準か。

指導主事

少人数制を目的としてクラスを2つにわけさせていただく。

榊井委員

学力テストの問題は記述が多く難易度が高いと感じた。今までの一斉の詰め込み教育から、どう知識を活かして発信していくか、他の人とコミュニケーションを取っていくかというトレーニングが重要である。ぜひ学校訪問の際には、学び合いの授業を見せていただきたい。また、学び合いは家庭や地域が基盤になると思うので、学校教育だけでなく、地域などにも広がってほしい。

教育長

子どもたちは授業以外でも学び合っているが、不登校の子どもは、そういった出会いや機会がほぼない状況にある。やはり一人でも多くの子どもが学校に通い、その中で、様々なことを人生経験として勉強できることも学校教育の大切な役割である。

良い授業・指導法に率先して取り組んでいる先生は、黙々とやっている場合が多い。そのような先生を見つけて積極的に声をかけるよう各学校長にお願いしている。この教育大綱を受けて、先生方が、思いついたプランや時間をかけて練ったアイデアを出してくれている。管理職の先生と協力しながら先生の発掘を進め、それらの先生が田原本町のリーダーになってほしいと考えている。

眞田委員

黒板に書くだけで授業を終えている先生がいると聞く。授業は学校教育の最も基本であり、授業の工夫は子どもたちの学習意欲を高めることに直結する。授業の内容がわかることが、学校が楽しいことに繋がり、不登校が減るという良い循環を生む。授業をしっかり基礎からやることは本当に大事である。今後の取り組みとして、良い実践をしている先生を大いにアピールし、その授業を他の先生方が研究授業として見に行くなど、切磋琢磨できる雰囲気をつくりだしてほしい。クラウドファンディングのような仕組みで、アイデアが13件ほど集まったと聞いたが、意欲のある先生方のアイデアを広げていくことが、全体の起爆剤になるのではないかと考える。

町長

素晴らしい先生のアイデアを横展開させることも教育委員会の使命だと思っている。引き続きお願いしたい。

榊井委員

読み聞かせの活動について、学校司書の先生が各学校を回っていると聞いている。電子図書は時代の先取りであるが、読み聞かせは違うメリットがある。マンパワーが必要で苦労していると思うが、ぜひ頑張ってください。学校での読み聞かせの現状はどうなっているか。

文化振興課長補佐

お話しボランティアの方が全小学校に入っている。学校にもよるが、基本的に1クラスにつき月1回の頻度で朝の読書の時間に読み聞かせをしている。対象は4年生まで。4年生は約2か月に1回の頻度で行っている。ボランティア以外に、先生から学校司書に依頼される場合もある。

榊井委員

電子黒板やタブレットを使用してICT化を進めたとしても、教科書の内容をただ写すだけでは意味がない。教師の役割は、単に知識を伝達することではなく、こどもたちの様子をよく見て、知識というものを手段として使い、こどもたちを指導することであると考えている。教師と生徒も互いに学び合わなければならない。

町長

授業の質は先生の指導方法によるところが大きい。消極的な先生を叱るよりも、素晴らしい実践をしてくださっている方を称賛すべきであると考えている。良い実践の横展開ができるような具体案を教育委員会で考えていただきたい。

(次回の総合教育会議について)

町長

議題は以上になる。

学校の取り組みを伴走支援していくことが我々の役割であり、先生方のお力添えがなければ教育の推進は不可能と考えているため、引き続きお力添えをいただきたい。以上で閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

午後4時20分 終了